

## 令和4年度 第1回倉吉市青少年問題対策協議会

倉吉市小中学生のいじめ・問題行動及び不登校に対する状況について説明し、早期発見・未然防止及び対応等について協議しました。

○日 時 令和4年6月24日（金）午後1時～2時30分

○場 所 成徳コミュニティセンター 第1・2会議室

○内 容

### 1 開 会

- (1) 開会あいさつ
- (2) 自己紹介

### 2 事務局説明

- (1) いじめの認知について
- (2) 倉吉市小中学校の生徒指導上の実態の概要
- (3) 倉吉市小中学校のいじめ・問題行動の状況について
- (4) 倉吉市小中学校の不登校の状況について

### 3 協 議

- (1) 倉吉市小中学校のいじめ・問題行動の状況について
- (2) 倉吉市小中学校の不登校の状況について

### 【主な意見】

#### ○不登校について

- ・コロナ禍において、学ぶことに対してリモートの活用等行えるような環境を整え、学習の保障をお願いしたい。
- ・高校では中途退学者が減ってきている。それは、小・中学校から何か心配なことがあると、早い段階からスクールカウンセラー等に繋いでもらっていることが、高校入学後早い段階において、自分から相談したいという姿として表れており、早期支援ができてきているという実態がある。とてもありがたい。

#### ○いじめ・問題行動について

- ・高校現場では、4月始まった当初、生徒には授業で、保護者には書面でいじめの定義について具体的なことを含めて伝えることを始めた。いじめの認知について共通理解として具体的に示すことはとてもよいことであるので、小中学校でも取り組む事例となればよい。
- ・いじめに対しては、加害者・被害者という立ち位置となるが、加害者となる児童生徒も被害者の児童生徒から何らかの行動をされていることが要因となっていることがある。加害児童生徒の気持ちをしっかりと聞いてもらうことが大切だと感じる。
- ・いじめに対する保護者の研修・講演会等に、参加してもらえるような工夫が必要。
- ・保護者間のつながりというのがキーワードとなる。
- ・問題が起きてからではなく、日々の挨拶をすることから保護者同士のつながりを作っていけるとよい。
- ・親子同士のコミュニケーションについては、思春期で難しさはあるが、なるべく話をするようにしている。交友関係をつかむために、友だちの名前を知らないということがないように、気を付けている。

### 4 その他

### 5 閉 会